

病理診断科研修プログラム

I 一般目標 (GIO)

病理医として適切な医療に貢献するために、診断病理学に必要な知識、技能、態度を身につける。

II 行動目標 (SBO)

1) 必要な知識

* 病理業務に関する知識

- ・病理業務に関する法および制度を説明できる。
- ・病理業務に関するリスクマネジメントを説明できる。
- ・病理業務の資料を管理、保管できる。

* 病理診断に必要な知識

- ・基本的な病理組織標本の作製過程を説明できる。
- ・免疫組織化学を含む特殊染色の原理を説明し、結果を評価できる。
- ・病理診断に必要な臨床的事項を的確に判断し、病理診断との関連性を説明できる。

2) 必要な技能

* 病理解剖の介助ができる。

- ・臓器、組織から得られた生検、手術材料を診断し、報告できる。
- ・基本的な病理組織標本の作製（切り出しから標本作製まで）を実施できる。
- ・CPCにおいて臨床的事項と病理所見の関係を説明できる。

3) 求められる態度

- * 病理診断、剖検などに際して患者、遺族に対する配慮ができる。
- * 病理業務において臨床医と適切に対応できる。
- * 病理業務に関してコメディカルと協調できる。
- * 病理業務の社会的貢献に積極的に関与する。
- * 研修会、セミナーなどに積極的に参加する。

III 方略 (LS)

- * 病理医・検査技師による資料を用いた病理学診断に対する講義・実習に参加する。
- * 病理解剖に立会い剖検の実施にあたり介助を行う。
- * 病理医による頻繁にみられる臓器に対する組織診断と報告の講義・実習に参加する。
- * 検査技師による病理標本作製の実習に参加する。
- * 病理医による CPC の実習に参加する。
- * 病理医による患者選択・家族に求められるに態度に対する配慮の講義を受ける。
- * CPC、症例検討会は参加は必須で、病理医の会、症例研究会、病理学会についてはいずれか最低1回以上は参加する